ホイールローダ
「The証言」

取材・文／増田祐二
撮影／小島真也

事業支援部長
村西利之氏
「日立建機には
ホイールローダの知名度を
もっと上げてほしい」

ZW220-5B専任オペレータ
久保田佳子さん
（オペレータ歴：7年）
「4月から本格稼働させて、いまアワメーターは700時間を超えました。乗りやすい機械ですね。サービスも言ったことを全部聞いてくれます（笑）」

中央砕石株式会社

【大阪府高槻市】

目利きの高いユーザーが見極める日立建機ホイールローダの製品力

カワサキと日立建機 双方の良い所がある

「"乗り換えた"という感覚は、まったくないですね。以前から使っているカワサキの機械と同等、日立建機のホイールローダはしっかり仕事をしてくれている。燃費はむしろ良くなっていますよ」

大阪・高槻市に6つのプラントと4つのヤードを構え、コンクリート骨材や道路の路盤材に使用される砕石・砕砂の生産販売を主事業とする中央砕石株式会社。4カ所のヤードで複数台のホイールローダを稼働させる同社の事業支援部長・村西利之氏は、日立建機のホイールローダZW220-5Bをこう評価した。これまで、主にヤードでの積み込み専用機として、数多くのホイールローダを現場に導入・代替してきただけに、ホイールローダに関する同社の目利きは高い。

「いろいろなメーカーの製品を稼働させてきました。景況判断から代替を早めてからは、価格面やメンテナンス性の良さ、サービス対応の迅速さなどからカワサキのホイールローダを積極導入してきましたが、日立建機と一緒になったことで、今春初めてZW220-5Bを稼働させたのです」（村西部長）

2015年10月、日立建機は川崎重工の子会社だったKCMをグループ傘下に収めた。両社はそれ以前より、排出ガス規制対応（オフロード法2011年基準）の新型ホイールローダを共同開発するなど事業提携を行ってきた。その双方の技術を融合して、シナジー効果を発揮させたのが日立建機のホイールローダZW220-5Bだ。

中央砕石では年間で70万t近い砕石・砕砂を出荷する。多いときで1日約100台のダンプに積み込むというが、現在、その作業を担うのがZW220-5Bと、同等スペックをもつ2台のカワサキ機の計3台。

「当社がホイールローダに求める主な機能は、耐久性・燃費・操作性。カワサキは耐久性や居住性、乗り心地がいいし、日立建機はエンジンやポンプに強い。だから両社が一緒になったときは、不安よりもむしろ信頼や期待が増しました。双方の良い所が機械に反映されるだろう……と。いま、3.4㎥のバケットを装着したZW220-5Bは、カワサキの2台とともに月曜から土曜、毎日6時から17時の稼働で積み込み作業やヤード均しをこなしています。その間、ヤードからヤードへの走行移動もある。こうした状況下で、毎日の給油は140～150ℓ。いい燃費です」（村西部長）

ZW220-5Bが現場に導入されて以来、同機の専任オペレータとして運転を担当しているのは、経歴7年になる久保田佳子さん。

「力強さを感じますね。バケットに目一杯すくってもリフトアップに余裕があります。砕石の山にグっと食い込んで、すくってからパッと下がり、パっと積むといった一連の動作も機敏だし、動きのバランスもすごくいい。エンジンの力を感じます。グリスも注しやすいですよ」（久保田さん）

以前は1クラス下のホイールローダで積み込み作業をしていた。ヤードにやって来る10～13tダンプとのマッチングは支障ない。だが、これまでは3杯フル。しかし今は2杯とプラスアルファ。「3杯目を調整できるので、積み込み作業に余裕が出ている」（久保田さん）という。

キャブの居住性も高く評価する。

「中は広いし、シートもクッションもいいですよ。ダンプへあけるときにしゃくっても、気になる振動はほとんど感じません。ここは

※専用アプリをダウンロードの上、スマホを写真にかざすと動画がご覧になれます。
(詳しくは2ページをご参照ください)

中央砕石株式会社に初めて導入された日立建機のホイールローダZW220-5B(装着しているバケットは3.4㎥、本体塗装は使い慣れたカワサキ色)。

ヤードからヤードへの登坂を含めた移動も多いですが、走行性も高いですね。おそらく、初心者からベテランまで誰もが乗りやすい機械でしょう」(久保田さん)

サービス担当が代わっても その対応ぶりは変わらず迅速

製品力だけではない。カワサキ機を多く導入していたころ、何かあるとすぐに対応してくれたサービス力の高さは、カワサキ機を選定する上で重要な基準だった。

「1台でも止まるとダメージは大きいですから。でも日立建機と一緒になり、サービス担当者が代わっても、対応ぶりは変わりませんね。(サービス員の)機動力はとても良く、相変わらずすぐに駆けつけてくれる。その日にできることは、夜9時や10時になっても終わらせて帰っていく」(村西部長)

ここ数年、新名神高速道路や安威川(あいがわ)ダムの工事で、同社の砕石・砕砂の出荷量は増え続けている。積み込み専用機であるホイールローダのクラスを上げたのも、生産性の効率化を図っての経営判断だ。今後は新名神高速道路が開通した後の周辺施設の工事に関連した需要も見込む。

多いときで約100台のダンプがヤードに来訪。2台のカワサキ機とともに、1日10時間の稼働で砕石・砕砂を積み込むZW220-5B。

4カ所あるヤード間の移動もあり、走行性も高く評価されている。

「ここのところ、ホイールローダの代替時期は稼働1万～1万2,000時間、約4年を目安にしてきました。ここは走行も多いので、そのぐらいが適切だと判断しています。今後は、その時々の景気判断にもよりますが、8,000時間で代替もあり得るかもしれません」(村西部長)

ConSite機能を搭載しているZW220-5Bだけに、その活用や提案によって資産価値を維持することにも、日立建機は大きく寄与できそうだ。

最後に、今般初めて導入した日立建機のZW220-5Bに対し、村西部長に点数を付けていただいた。

「96点。−4点は、これからの日立建機への期待度です。カワサキとの技術融合によって、日立建機がこの先にどんな良い機械を出してくるか、楽しみにしています」